

修士論文（要旨）

2020年7月

身体障害者施設職員が仕事を辞めたいと感じてから  
就労を継続していく心理的プロセス

指導 井上 直子 教授

心理学研究科  
臨床心理学専攻  
218J4008  
長澤 篤郎

Master's Thesis(Abstract)  
July 2020

The Psychological Process by which Physically Handicapped Facility Employees  
Overcome the Desire to Resign

Atsuro Nagasawa  
218J4008  
Master's Program in Clinical Psychology  
Graduate School of Psychology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Naoko Inoue

## 目次

第1章 問題 .....	1
1-1 介護職の業務と離職 .....	1
1-2 身体障害者施設と業務 .....	1
1-3 障害者施設の業務とやりがい .....	2
第2章 目的 .....	2
第3章 方法 .....	3
3.1 調査対象 .....	3
3.2 調査期間 .....	3
3.3 調査方法 .....	3
3.4 調査内容 .....	3
3.5 分析方法 .....	5
第4章 結果 .....	5
4.1 分析対象者の概要 .....	5
4.2 概念 .....	5
4.3 カテゴリー .....	7
4.4 結果図 .....	8
4.4 全体のプロセス（ストーリーライン） .....	10
4.5 データに基づくカテゴリーと概念に関する説明 .....	11
第5章 考察 .....	24
5.1 施設職員が仕事を辞めたいと感じる経験 .....	24
5.2 《危機への一次対応》からの展開 .....	25
5.3 《上司・先輩からのサポート》の役割 .....	27
5.4 《それぞれの就労働機の再獲得》のプロセス .....	28
5.5 仕事を辞めたいと感じてから就労継続へと至る心理的プロセス .....	30
5.6 今後への課題と提言 .....	30

謝辞

参考文献

添付資料

## 第1章 問題

近年、我が国では福祉人材不足が叫ばれ、他の産業と比べ離職率が高く、人材定着率の低さが問題となっている（大杉ら, 2018）。介護労働安定センター（2018）によると、介護職の離職率は16.2%を示し、常用労働者全体の離職率14.9%よりも高い数値を示している。離職した者の勤続年数は1年未満が38.8%、1年以上3年未満が26.4%、3年以上が34.9%という結果であり、65.2%が3年以内に離職していることになる。身体障害者施設の職員の就労継続を考えると、職員が離職へと至る要因とともに、就労を継続していける要因ややりがいにも注目することが重要であると考えられる。

## 第2章 目的

本研究では身体障害者施設の職員（以下、「施設職員」と表記）が、職場において仕事を辞めたいと感じる経験をした後に、その経験を自分の中で定位し、就労を継続していく心理的プロセスの抽出を目的とする。施設職員が、困難に直面しながらも就労を継続していく心理的体験プロセスを探索的に描き出すことで、彼らへの支援を考えるための一助となるであろう。また、職員が定着して働くことは、施設の利用者にとって安定的な支援が行われるうえで重要であり、当該施設のみならず介護現場の職員が安定して働ける職場づくりの一助となる提言に繋がることが期待される。

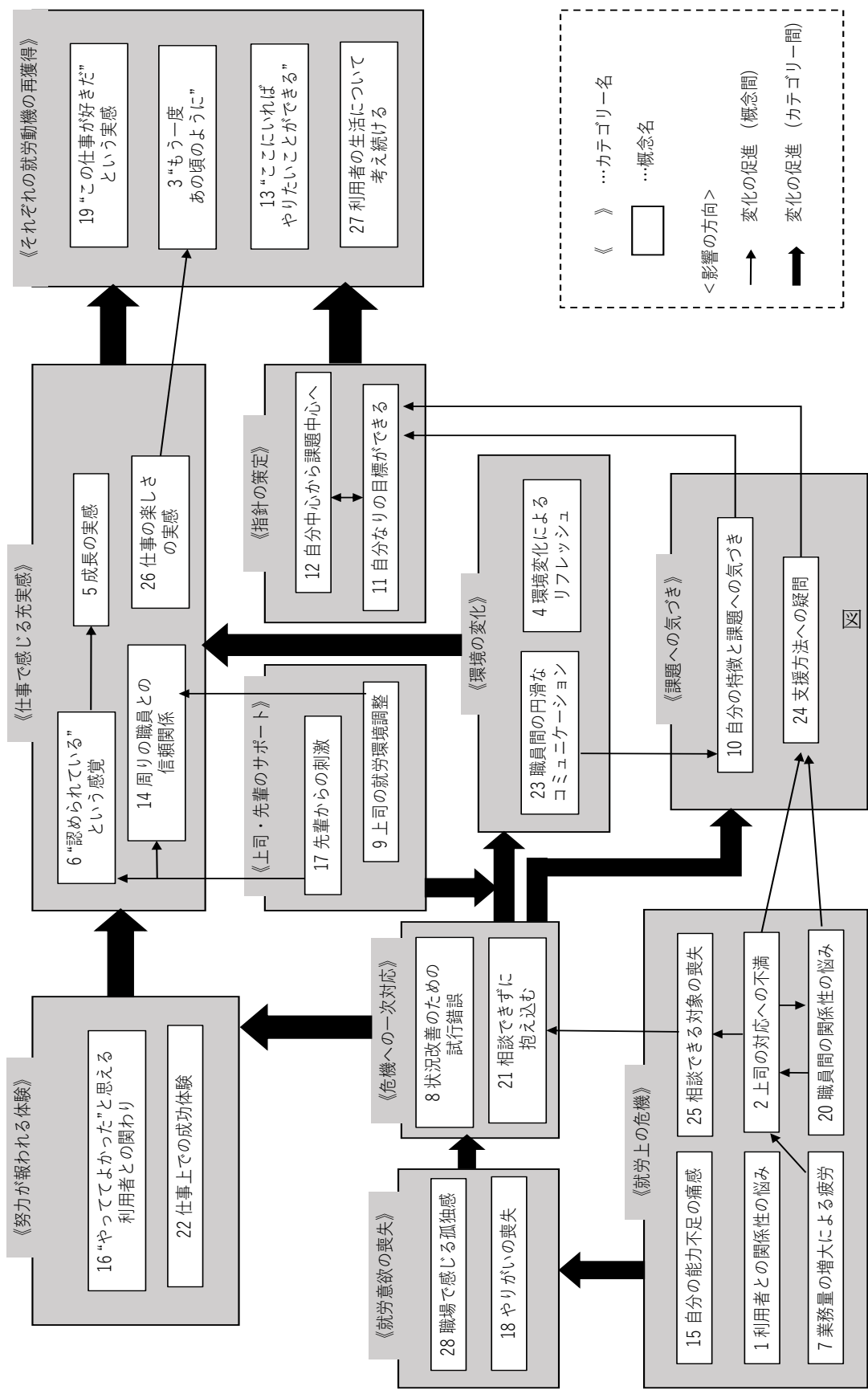
## 第3章 方法

本研究の目的に沿った対象が抽出可能な、首都圏内の身体障害者の入居施設である社会福祉法人（以下、施設Aと表記する）を研究協力機関とした。施設Aは、身体障害者福祉の分野において障害者の立場に立った生活支援を行うために、施設職員の待遇改善にも取り組んでいる。しかし、その取り組みにもかかわらず人材不足の問題を抱えていることから、待遇改善といった物質的観点とは別の心理的プロセスに着目する本研究に適した福祉現場であると考え、調査対象とした。インタビュー調査の対象は、職場において仕事を辞めたいと感じる経験をしたうえで現在も勤務を継続している、勤続年数が3年以上の施設A職員男女9名を対象とした。なお、先述の通り3年以内の離職率の高さを考慮し、対象を勤続年数3年以上の者とした。

分析方法は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を採用し、分析テーマを「身体障害者施設職員が仕事を辞めたいと感じてから就労継続へと至る心理的プロセス」、分析焦点者を「身体障害者支援施設の職員で仕事を辞めたいと感じたことがあり、現在も勤務を継続している人」とした。

## 第4章 結果

M-GTAによる分析の結果、最終的に28個の概念が生成された。次に、生成された概念の関連性を検討し、カテゴリー化を行った。その結果、《就労上の危機》《就労意欲の喪失》《危機への一次対応》《努力が報われる体験》《上司・先輩のサポート》《環境の変化》《仕事で感じる充実感》《課題への気づき》《指針の策定》《それぞれの就労働機の再獲得》の10個のカテゴリーが生成された。生成されたカテゴリー、概念の関係性を示したものが結果図であり、次ページ図1のようにまとめた



1 結果図

## 第5章 考察

身体障害者施設職員が仕事を辞めたいと感じてから就労継続へと至る心理的プロセスは、始点としての《就労上の危機》における【業務量の増大による疲労】は《環境の変化》によって多少減じられることはあるとしても物理的には大きな変化を期待できない要素と考えられるが、【職員間の関係性の悩み】【上司の対応への不満】【相談できる対象の喪失】【利用者との関係性の悩み】【自分の能力不足の痛感】は《危機への一次対応》における取り組みの中での体験が分岐点となり、その後の経過の中で減じていくことによって、《それぞれの就労動機の再獲得》に直接繋がるような《仕事で感じる充実感》や《指針の策定》といった現在を肯定的に捉えると同時に未来に向けての取り組みに意欲や希望が持てる状態へと変容していき、最終的に就労継続へと至ることが明らかとなった。

すなわち、この心理的プロセスの展開においては、《危機への一次対応》をしている中で《努力が報われる体験》や《上司・先輩のサポート》、あるいは《課題への気づき》を得られることで《就労上の危機》が減じられるかどうかは鍵であると言えよう。

## 参考文献

- 柘崎 京子・畠山 千春 (2011). 身体障害のある施設利用者の生活ニーズ: 主観的ニーズからみた分析と実践への示唆 社会福祉学, 52(2), 121-135.
- 井上 裕美・粟村 昭子・長見まき子 (2013). 福祉職場における Work Engagement : 施設種別による関連要因の検討 同志社政策科学研究, 14, 131-145.
- 介護労働安定センター (2018). 平成 29 年度介護労働実態調査結果<[http://www.kaigo-center.or.jp/report/h29\\_chousa\\_01.html](http://www.kaigo-center.or.jp/report/h29_chousa_01.html)> (2019 年 4 月 11 日参照)
- 厚生労働省 (1972). 身体障害者福祉法の一部を改正する法律の施行について <[https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00ta8508&dataType=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00ta8508&dataType=1&pageNo=1)> (2019 年 6 月 27 日参照)
- 厚生労働省 (2013). 地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉政策を講ずるための関係法律の整備に関する法律について <[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/shougaihashukushi/sougoushien/dl/sougoushien-06.pdf](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/sougoushien/dl/sougoushien-06.pdf)> (2019 年 6 月 27 日参照)
- 厚生労働省 (2018). 平成 29 年雇用動向調査結果の概況 <<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/doukou/18-2/dl/gaikyou.pdf>> (2019 年 5 月 8 日参照)
- 木下 康仁 (2007). ライブ講義 M-GTA—実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて 弘文堂
- 永野 典詞 (2009). 身体障害者療護施設利用者と施設職員の主観的ニーズ認識に関する研究: 主観的ニーズに関するアンケート調査の分析から 社会福祉学, 49(4), 92-103.
- 中山 慎吾 (2019). 障害者施設職員の肯定的仕事観に関する研究—自由回答に基づく分析— 鹿児島国際大学福祉社会学部論集, 38, 42-58.
- 内閣府 (2018). 障害者白書 <[https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h30hakusho/zenbun/siryo\\_02.html](https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h30hakusho/zenbun/siryo_02.html)> (2019 年 6 月 27 日参照)
- 大杉あゆみ・山頭 照美・飛永 高秀 (2018). 福祉専門職の継続的な就労の要因に関する研究. 純心人文研究, (24), 19-32.